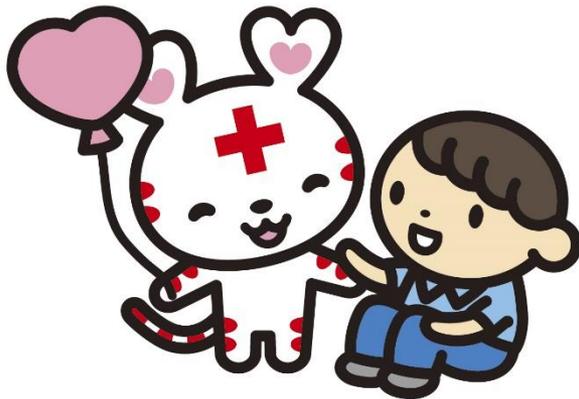


# 日赤健保 第3期データヘルス計画



総務課 保健係  
R6年3月作成

# データヘルス計画書とは？

加入者の健康保持増進のため、  
レセプト・健診結果等のデータの分析に基づき、効果的な保健事業を  
PDCAサイクルで実施するための事業計画。

国より全ての保険者に  
取り組みが求められて  
いる。

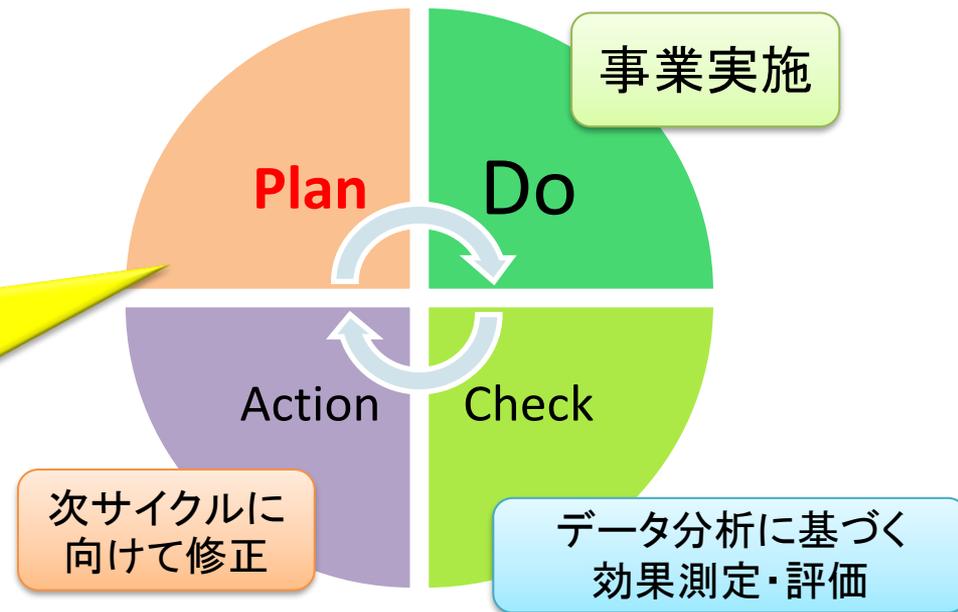
◎第3期は令和6年度から11年度までの6年計画。

## ◎PDCAサイクル

継続的に事業を実施する！

### データ分析に基づく事業立案

- ① 健康課題、事業目的の明確化
- ② 目標設定
- ③ 費用対効果を考慮した事業選択





# STEP1 (現状を構造的に把握する)

## ①基本情報から見える特徴

- 加入者は25歳～39歳が多く、被保険者の7割が女性である。
- 被扶養者のうち7割が20歳未満である。は乳幼児～学童が多い。
- 加入者9万人(被保険者6.4万人)を超える大規模な健保組合であり、事業所が全国に点在しており、事業所は大小(20人程度から1,000人超)さまざま(都道府県各支部や病院、福祉施設)である。

## ②保健事業の実施状況から見える特徴

- 被保険者の特定健診は生活習慣病予防健診と事業主健診(法定健診)からの収集。
- 生活習慣病予防健診は約7割の利用(事業主健診ではがん検診など受けられていない)。
- 健診結果の提出が遅れると、特定保健指導、重症化予防の受診勧奨等の案内に影響を及ぼしてしまう。
- 特定保健指導の実施率は事業所間の差(100～0%)があり、事業主の理解や協力体制が必要。(特に医療機関の専門職種が利用を拒む傾向がある)
- 被扶養者の特定健診受診率の低迷が続いている。

## ③基本分析から見える特徴

レセプト・健診結果分析からSTEP2の健康課題をあげた。

## STEP2 (健康課題の抽出と優先順位付け)

### ●優先すべき健康課題

- ①悪性新生物の有病者割合は消化器疾患、乳がん、女性生殖器の順である。
- ②被保険者の特定健診受診率は健保平均を上回ったが、特定保健指導実施率が健保平均より低く、事業所間の差が極端である。

### ●その他の健康課題

- ③食生活の乱れ、運動習慣のない者の割合が7～8割にのぼる。
- ④メンタル系疾患は増加しており、有病割合の年齢階層別ではほとんど差がない。
- ⑤喘息やアレルギー性鼻炎など呼吸器疾患の一人当たり医療費が恒常的に高い。



## STEP3

### (課題解決に向けた事業計画と目標・評価指標の設定)

#### 保健事業全体の目的・目標

- 女性特有のがんやその他の新生物の有病者の早期発見、早期治療を実現し、将来の有病率や医療費の低減を目指す。
- 特定健診受診者のうち、特定保健指導判定値を超える者の割合を減らすことを目標に、特に被扶養者の特定健診実施率、被保険者の特定保健指導実施率を高めるために事業主との協働体制を構築する。
- がん検診の受診率を高めるために生活習慣病予防健診の利用を増加させる。
- 医療費割合の新生物、新生物の一人当たり医療費の乳がんの割合を減少させる。
- 被保険者の特定保健指導実施率を高める
- 被扶養者の特定健診受診率を高める。
- 事業に協力的な事業主からの共同実施を試みる。



健康課題を解決するための新規事業・取組を  
R6年度以降実施することを計画。



## 課題と対応1

課題① 悪性新生物の有病者割合は消化器疾患、乳がん、女性生殖器官の順である。

乳がんの有病者割合

**日赤健保 0.92%**

(R3年度 被保険者)

子宮がんの有病者割合

**日赤健保 0.06%**

(R3年度 被保険者)

早期発見・早期治療  
がん検診の拡充

消化器がんの有病者割合

**日赤健保 0.48%**

(R3年度 被保険者)

### ・乳がん検診・子宮がん検診

対象年齢の拡大(35歳以上偶数年齢⇒35歳以上)

### ・胃内視鏡検査、胃がんリスク検診の利用勧奨

胃内視鏡補助金 ABC検査(ピロリ菌抗体+ペプシノゲン)、ピロリ菌抗体検査

## 課題と対応2

課題②被保険者の特定健診受診率は健保平均を上回ったが、特定保健指導実施率が健保平均より低く、事業所間の差が極端である。

日赤健保

**25.3%**

(R3年度)

実施率20%未満  
84事業所

健保連平均

**33.2%**

(R3年度)

特定保健指導受診率の向上を目指す！

### ・特定保健指導

低実施率事業所への個別支援

特定保健指導事業所ごと実施率を公表

就業時間内での実施を協力依頼、健診当日(分割)保健指導、ICT型(スマホアプリ・Zoom)、を活用した保健指導の促進

## 課題と対応3

課題③食生活の乱れ、運動習慣のない者の割合が7～8割にのぼる。



生活習慣病のリスクを低減するために！

### 日赤健保

(週2回以上30分以上の運動習慣がない)

男性 70.6%

女性 84.6%

(R3年度特定健診質問票結果)

### ・スポーツクラブ2社との法人契約

全国に展開するクラブ、オンラインで自由な時間帯でコンテンツ100件以上利用可能(ルネサンス、LAVA)と契約し、無料および廉価な価格で利用できる。

### ・ウォーキングイベント開催

条件クリアでインセンティブを用意し、運動の機会を増やし、運動の習慣化を図る。

## 課題と対応5

課題④メンタル系疾患は増加しており、有病割合の年齢階層別ではほとんど差がない。

メンタル不調による休職の防止。  
働きやすい職場環境の醸成

### ・メンタルヘルス関連事業

ストレス対策についての情報を広報誌やホームページで周知する

## 課題と対応3

課題⑤喘息やアレルギー性鼻炎など呼吸器疾患の一人当たり医療費が恒常的に高い。

日赤健保

喘息 1人当たり医療費  
**405円**  
(R3年3月、家族)

日赤健保は職員の出産が多く、  
子育て世代への健康支援が大切！

- ・母子保健・小児アレルギー対策に関する冊子の配布  
出産手当金を給付した被保険者に対して配布する。  
健康情報の提供、疾病予防・健康増進を図る。



## STEP4 (事業評価と見直し)

評価指標を用いて目標の達成度を確認し、成否の背景(要因)を探ります。見直しのタイミングは年度ごとに限らず、必要に応じて年度の途中でも行います。

### 第3期データヘルス計画の評価時期

